

住民のQOL向上のための公共施設複合地区の計画 —北海道夕張市における集約型コンパクトシティ研究—

大澤 菜緒

1. 研究の背景と目的

地方小都市では、人口減少や建物の老朽化、財政圧迫などの課題から、拡散した都市構造の集約化が求められる。特に公共施設においては利便性の低下や維持管理費用の増大などの問題を抱えており、それらを集約し効率的な管理運営をすることが求められる。現在施設単体の再編方針や市全体における各地区の位置づけ、方向性はあるが、それらを結びつける施設再編の計画手法は確立されていない。

本論ではコンパクトシティ形成を進める北海道夕張市を対象とし、住民のクオリティオブライフ（以下QOL）を重視した施設の評価をもとに、地区ごとの特徴や再編の方向性に基づいた公共施設の再編方針を提案することを目的とする。

2. 研究の方法

本論では、①市の施設再編を検討するうえで全市に影響を与える主要地区内の調査対象施設を決定する。②施設の住民生活における役割や施設自体の能力を評価するための評価項目を既往研究¹⁾を参考に作成する。③②の項目に基づき①の各施設を評価するヒアリング調査^{注1)}を行う。④③の結果から各地区の施設配置の特徴や課題を明らかにする。⑤④と既往研究²⁾の施設の廃止判定等から施設連携方針を提案する。⑥施設再編のために重要な考え方を明らかにする。

3. 都市再編を担う調査対象施設

夕張市の立地適正化計画^{注2)}で清水沢、若菜、紅葉山の3地区が拠点地区とされている（図1）。既往研究³⁾の人口推計等からも3地区に公共施設を集約する必要があることは明らかである。本調査では3地区にある公共・民間施設の中で、過去のワークショップとアンケート調査⁴⁾から住民生活との関係が深いと判断した清水沢28施設、若菜12施設、紅葉山8施設を調査対象とする（図3）。

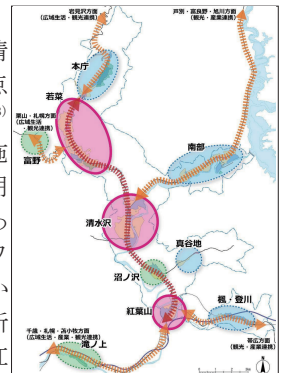


図1 将来都市構造

4. 住民のQOLに基づく施設評価項目の作成

既往研究¹⁾を参考に施設評価に必要な10項目を作成した（図2）。既往研究では医療福祉、教育、利便性、コミュニティ、余暇、住宅環境、経済、地域性の8つのQOLの視点が作成された。本論では施設の規模、世代による余暇の違い、近隣施設の連携、施設への行きやすさを図るため、それぞれコミュニティを大・小コミュニティに修正、若者の余暇、集約度を追加した。また調査対象に民間施設も含むため商業を追加し、施設評価と直接関係がないと判断した項目は削除した。

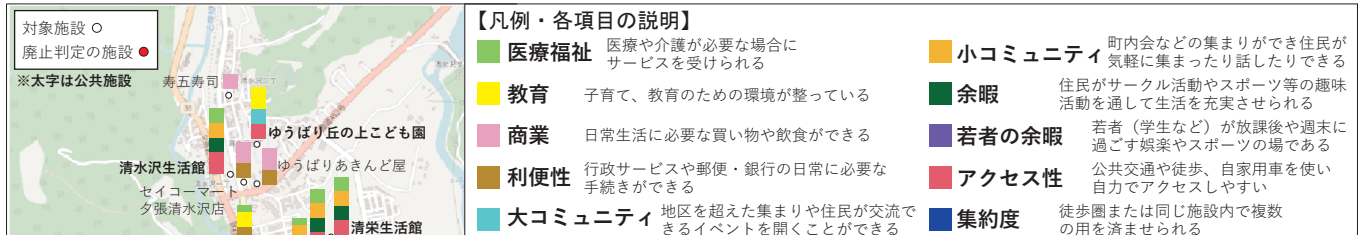


図2 評価項目と凡例

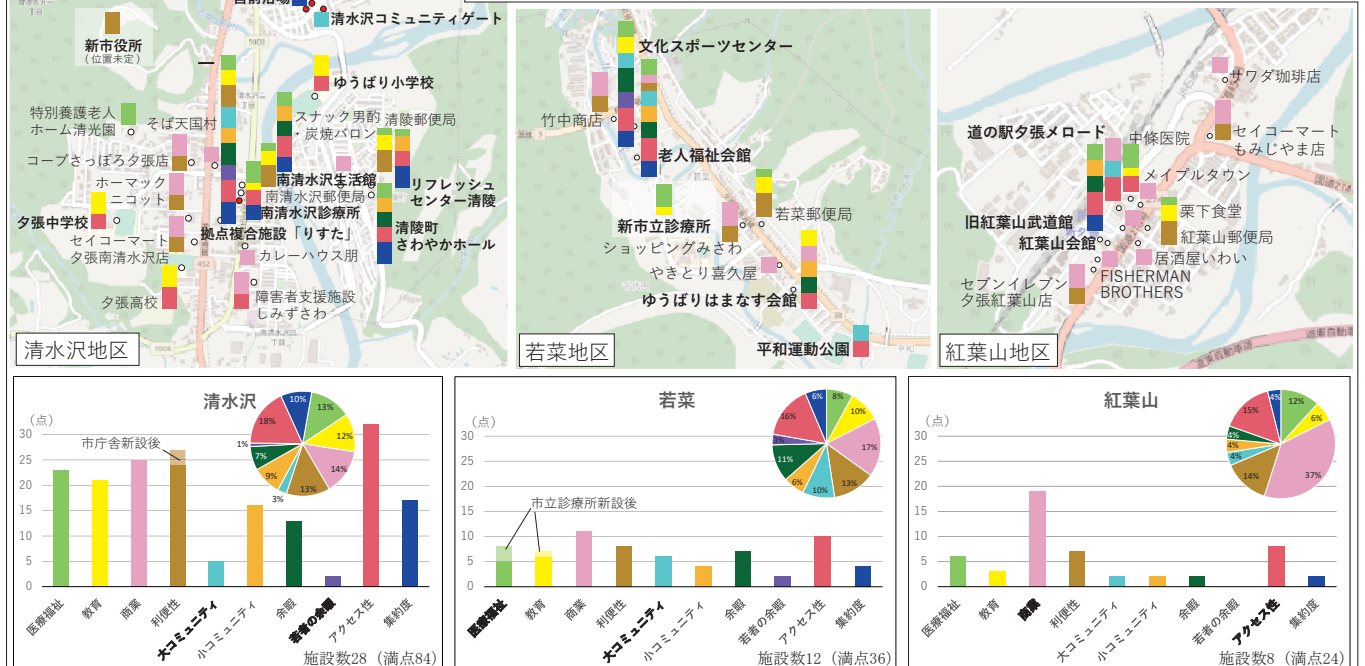


図3 拠点地区の施設分布と評価結果

5. 施設評価結果からわかる各地区の特徴

夕張市役所の職員の方に、対象各施設の4章の評価項目に基づく0～3点での点数付けを依頼した。評価項目毎の各施設、各地区の評価結果を図3に示す。清水沢地区は施設数が多くほとんどの項目で一定点以上満たしているが大コミュニティ（以下大コミュ）と若者の余暇の点数が低い。若菜地区は全施設数が少ない割に大コミュの点数が高い。また文化スポーツセンターでは幅広い世代が利用でき全市的なイベントも開かれることや、老人福祉会館は高齢者の食事から入浴、余暇など生活において必要な多数の役割を担うなど特徴的な施設が複数ある。紅葉山地区は商業の点数が他の項目より特に高い。JR駅や高速道路の出入口に近くアクセス性もよいが、現在の施設数が非常に少ないため他の項目の点数は低い。

6. 施設評価と施設移転計画に基づく公共施設連携の提案

6-1 提案の前提の整理

既往研究²⁾より廃止予定の施設を廃止した場合の清水沢地区の評価を図4に示す。今回調査対象の施設の中で、廃止判定となった施設があるのは清水沢地区のみであった。医療福祉や大小コミュの役割が特に不足する。

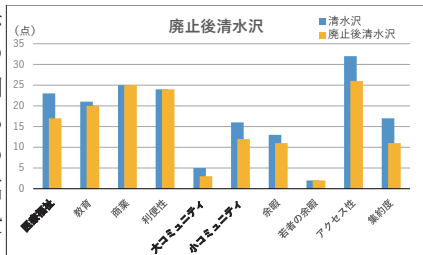


図4 現状と廃止後の比較

6-2 公共施設の連携と役割分担の提案

5章と6-1章より地区別に考えられる公共施設連携の方針を以下に示す。

【清水沢地区に対する提案】

市庁舎の移転⁴⁾を踏まえ、充実した都市拠点として整備するために、4章で示したいずれの項目も不足なく満たす必要がある。特に大コミュ、若者の余暇、医療福祉の役割をいかに増やすかが課題である。そのような不足する項目を補填するために考えられる3つの方法を具体案とともに以下に示す。

①不足する項目を満たす機能を備えた施設の新設（図5）

新庁舎に学生や子ども園に通う親子が自習や会話、飲食をできる場や子育て相談の場を設ける。道中に運動や遊びができる公園を整備するなど施設間も一体的に整備する。新市庁舎と教育施設の連携により若者が余暇を過ごす場を増やす。

②既存施設の用途や利用体系の変更（図6）

・地区内に複数ある生活館を学生が趣味や部活動、学習のための場として自由に利用できる時間をつくる。学校が生活館の空き時間を活用することで学生が学校や家以外で過ごせる場を増やす。

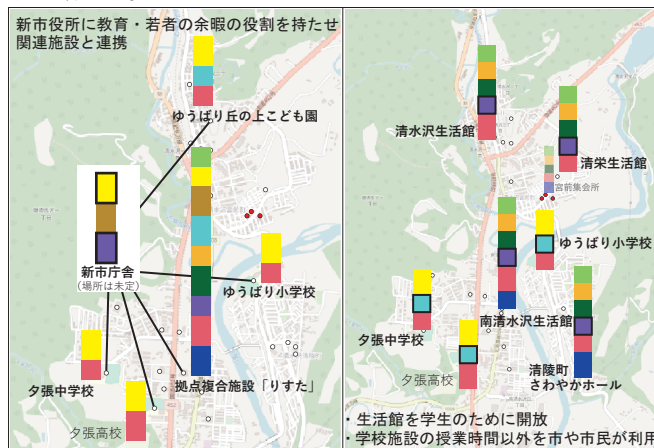


図5 不足する項目を満たす機能の施設新設

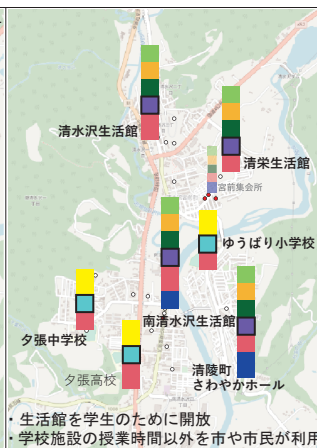
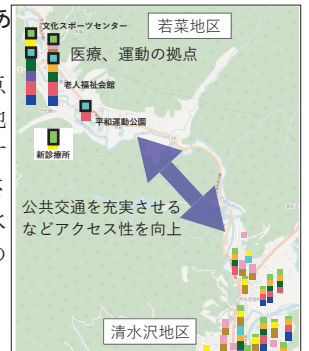


図6 既存施設の用途や利用体系の変更

・既存の小中高校の体育館を市のイベント等で積極的に利用することで大コミュの役割を担う施設を増やす。また学校施設の一般開放を行うなど利用の幅を広げる。

③不足する項目を満たす施設がある他地区とのアクセス性向上

医療や健康、スポーツの拠点としての再編方針を持つ若菜地区との公共交通の本数を増やすなどして、アクセス性を向上させる。それにより間接的に清水沢地区の大コミュや医療福祉の点数は向上する（図7）。



【若菜地区に対する提案】

各施設の利用の幅拡大のための連携

大コミュ拠点多いことと市立診療所の移転⁵⁾を踏まえ、医療や運動の拠点としての特徴をさらに強化する必要がある。

現在は多項目を満たす施設がそれぞれ独立して存在しているが、それらの連携を図りターゲットとする住民生活の幅を広げることで地区の特徴の内的な強化につなげる（図8）。

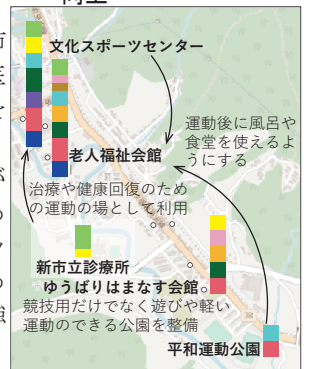


図8 若菜地区の連携案

【紅葉山地区に対する提案】

道の駅を中心とした拠点整備

飲食店など商業の拠点多いこととアクセス性の良さを活かし、市の観光の入口という特徴の強化が必要である。

JR駅と道の駅周辺の歩道、広場の整備により両者をつなぐ、道の駅内の滞留スペースを待合所や観光案内所に整備するなど既存施設の魅力向上を図る（図9）。



図9 紅葉山地区の連携案

7. まとめ

夕張市の拠点地区の施設再編方針として、清水沢地区は市の中心となる都市拠点として若者の余暇、大コミュ、医療福祉の役割を充実させるため、①新庁舎に若者のための機能を入れる②既存施設の用途や利用体系を変更する③若菜地区とのアクセス性を向上させることが必要である。若菜地区は医療・運動の拠点としての特徴を施設の利用時間や対象の拡大によって強化すること、紅葉山地区は市の観光の入口という特徴を強化するため、道の駅を中心に施設機能や外部空間の整備が必要である。同時に若菜や紅葉山でも地区住民の日常生活の充実を図る余暇やコミュニティ拠点整備も必要である。

以上のことから施設単体で廃止や用途転換の方針を考えるのではなく、①②のように地区内の複数施設で足りない役割を補填する考え方が重要である。また③と若菜、紅葉山に対する提案のように全市における各地区の位置づけや特性を考慮しそれぞれが現在持つ強みを活かした計画を検討することが重要である。

【参考文献】1) 長尾美幸, 地方小都市における住民の生活意向に基づいた集約型都市像の計画研究—北海道夕張市における都市再編研究その1—, 2011 2) 上木翔太, 立地適正化計画における都市機能誘導に向けた公共施設再編プランニング—北海道夕張市における集約型コンパクトシティ研究その27—, 2022 3) 小原史, 人口減少都市における市街地集約によるコンパクトシティ夕張 2040 の提案—北海道夕張市における都市再編研究その19—, 2019 4) 杉本匠, コンパクトシティの都市拠点形成に向けた市民意向を反映した公共施設再編—北海道夕張市における集約型コンパクトシティ研究 その26—, 2022 【注釈】1) 2022年12月22日に夕張市役所建設課（1名）にヒアリングした。2) 2021年3月策定 4) 第2回夕張市庁舎整備検討委員会（2022年9月1日）で南清水沢に移転することが決定。5) 市立診療所が移転し2023年に若菜地区に開所予定。